



# 羅針盤

## Market Forecasts by Y. san -2月-

### 鉄スクラップ

1月の鉄スクラップ価格は東京製鉄宇都宮工場特級価格41,000円/トンのスタートから始まり、24日に1,000円/トシ下がり、27日時点40,000円/ト。市中からの発生不足、不安定な米国の動きから見て、2月はさらに下がるでしょう。

### 銅

銅価格は、1月はLME9,200<sup>F</sup>\_/トン台。国内銅建値1,430,000円/トンでスタートし、8日と10日に20,000円/トシ上げ、22日は1,480,000円/トでした。2月に関してはトランプ大統領の対中関税への積極的な姿勢から上がると思われる。

### 1月予測の自己評価

### アルミ

1月スタートはLME2,500<sup>F</sup>\_/トン、24日時点LME2,600<sup>F</sup>\_/トン台。2月に関しては、トランプ大統領の対中関税対策、輸出向け価格の上昇を考えると上がると思われる。

### 鉄スクラップ;○ 銅 ;× アルミ;○ ×

### 産業廃棄物夏

清掃工場や中間処理工場でリチウム電池やバッテリー混入が原因の火災が増加しています。袋回収や段ボール詰めで搬入されたものから発生していますが、回収された廃棄物は破袋作業や土間選別を徹底することで、火災を大幅に防ぐことが可能です。受け入れ側である処理工場が安全対策を強化し、適切な手順を導入することが求められます。

## Topics

### SDGsの次は・・・SWGs?

新しい年、2025年が明けて早くも2月です。

国連が目標に設定しているSDGs(Sustainable Develop Goals:持続可能な開発目標)\*1の目標年である2030年迄に、残すところ5年となりました。

SDGsはMDGs(Millennium Development Goals:ミレニアム開発目標)\*\*2から引き継いだ目標です。MDGsは、1990年代に開催された主要な国際会議やサミットで採択された国際開発目標と、2000年にニューヨークで開催された国連ミレニアム・サミットにて採択された国連ミレニアム宣言とを統合し、一つの共通の枠組みとして2001年にまとめられ、2015年までに達成すべきとされていた国際的な目標でした。SDGsの目標に似たものもありますが、MDGsは、8つの目標、21のターゲット、60の指標が定められており、8つの目標は以下のとおりでした。

#### MDGsの8つの目標



1. 極度の貧困と飢餓の撲滅
2. 普遍的初等教育の達成
3. ジェンダーの平等の推進と女性の地位向上
4. 乳幼児死亡率の削減
5. 妊産婦の健康の改善
6. HIV/エイズ、マラリアその他の疾病の蔓延防止
7. 環境の持続可能性の確保
8. 開発のためのグローバル・パートナーシップの推進

MDGsは、特に途上国の人々が直面していた多くの問題を解決する原動力となりました。具体的な目標値を掲げ、15年間の年月をかけて世界が一丸となって取り組んだ結果、多くの命が守られ、人々の生活環境が改善されました。

その一方で、MDGsの達成状況を国・地域・性別・年齢・経済状況などから見てみると、様々な格差が浮き彫りとなり、「取り残された人々」の存在が明らかとなりました。

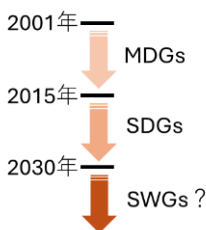
MDGs最終年の2015年、ポスト2015年開発アジェンダとなる世界の17の目標を定めた『持続可能な開発目標(SDGs)』が、9月の国連総会で採決されました。

SDGsは2030年までの開発の指針として、格差をなくす(=“誰ひとり取り残さない”)ことを重要な柱とし、MDGsの取り組みをさらに強化するとともに、新たに浮き彫りになった課題も加えられた包括的な目標で、貧困削減、教育、ジェンダー平等、気候変動対策など、多岐にわたる問題に対応しています。

さて、それでは2030年以降、SDGsを継承する目標は何でしょうか? 有力視されているのが、さまざまな国際機関や企業で提唱され始めているSWGs(Sustainable Well-being Goals:持続可能なウェルビーイング目標)です。

ウェルビーイング(Well-being)は、「Well」の「良い」と「Being」の“状態”を組み合わせた言葉で「個人の権利や自己実現が保障され、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを意味する概念(厚生労働省「雇用政策研究会報告書概(案)より)」とされており、

ただ、このWell-beingという概念の日本語は、立場により「健康」「幸せ」「福祉」等と訳され、包括的に一言で表現する言葉がないようなので、ウェルビーイングのまま使われていくのではないのでしょうか。➤



## Series

### 「沖縄でのクジラとの出会い」



サイクルーズ 経営企画部  
三谷薫子

私は大きな生き物がとても好きです。その中でも、人生に一度はこの目で見たいと思っていた生き物との出会いについてお話します。

それは6年前、人生初の沖縄旅行での出来事でした。旅行の中で私はホエールウォッチングに参加しました。そのツアーでは、50人くらいの大勢の方々と大きめの船に乗り、海上に出ました。沖に出て1時間以上船を走らせ、クジラが生息している場所まで行きます。沖縄の海なので、眺めているだけでも美しい景色が広がっていました。クジラのいる地点に着くと船のスピードを落とし、スタッフの方が遠くを見渡しながらかクジラの姿や潮吹きを探します。遠くにクジラを見つけたら船長さんがすぐに舵を切り、そこに向かいます。潮を吹いている瞬間が遠くからでも見つけやすいようです。たまたまヒレを出してジャンプしていることもあります。さて、最初に見つけたのは親子でした。2体の大きな背中が並んで浮上しているのが目に入りました。子どもと言っても、とても大きく、おそらく5メートル以上はあると思います。人生で初めて目にするクジラの姿は圧巻で、息をのみました。その後も何度か浮上して来るクジラを見つけたことができました。姿が見えるだけでも感動がありましたが、その日はたまたまジャンプしている姿も見ることができました。ジャンプは運が良ければ、と言われていたので、何回も目撃することができ驚きました。

クジラがジャンプするのは、体についた寄生虫を振り落とすため、クジラ同士のコミュニケーション等の説があるそうです。あの大きなクジラが、体が痒くてジャンプしていると思うと少し面白く感じます。そして最初のクジラが現れてから1時間くらいが経過し、そろそろ帰路に着くという時でした。突然、目の前で大きなクジラがジャンプしました。本当にいきなり船のすぐ目の前に現れたので、大迫力の瞬間でした。ここまで近くでジャンプを見られることはそうそうないそうです。

右の写真はその時に家族が撮影した写真です。合計3時間におよぶ船旅で、帰りは船酔いが本当に辛かったので、それも吹き飛ばす経験ができ、今でも忘れられません。皆様も是非沖縄に遊びに行った際にはホエールウォッチングに参加してみてください。また、次に機会があれば、北海道のシャチウォッチングについてもみたいと思っています。



今回のとびとび連載はここまでですが、もし、シャチウォッチングが出来たら、またぜひご報告したいと・・・(了)

➤ SDGsが目指しているのは「持続可能な開発」であり、具体的な幸福や福祉の状態までには踏み込んでいませんが、SWGsの概念は、SDGsの枠組みを超えて、より深く人間の幸福や福祉に焦点を当てたもので、経済的、環境的、社会的な側面を統合し、持続可能な社会の実現に向けて新たな指針を提供することを目的としています。

出典及び参考とした資料

- \*1:SDGs [https://www.unicef.or.jp/news\\_press/features\\_backgrounders/31737/](https://www.unicef.or.jp/news_press/features_backgrounders/31737/)
- \*2:MDGs <https://www.unicef.or.jp/mdgs/>